

令和3年度（2021年度）お茶の水女子大学入学者選抜に関する 変更の予告について（2/7版）

○ 大学入学共通テスト記述式問題導入見送りへの対応について

お茶の水女子大学では、令和3年度入学者選抜に関する変更の予告を既に公表しているところですが、大学入学共通テスト記述式問題導入が見送られたため、予告内容のうち記述式問題の利用方法について削除することといたします。

《削除部分》

(2) 記述式問題の利用方法

一般選抜を受験する全ての受験生に、国語と数学の記述式問題の受験を課します。

国語については、大学入試センターから提供される段階別評価に基づき点数化し、マークシート式問題の成績に加点します。具体的な配点については、決定次第公表します。

数学については、正誤のみの判定であること、及び大問の中でマークシート式問題と一体で出題され記述式問題にも配点がなされることから、従来のマークシート式と同様の取扱いとします。

○ 大学入学共通テスト外国語「英語」の配点について

大学入学共通テストの外国語において「英語」を選択した者については、【リーディング】と【リスニング】の受験を課し、大学入試センターが設定した【リーディング】100点、【リスニング】100点の配点比率を変えずにそのまま合計して200点満点とした上で、各学科等の定める外国語の配点に換算して利用します。（受験上の配慮によって【リスニング】受験を免除された者については【リーディング】の得点を2倍して200点満点とします。）

令和3年度（2021年度）お茶の水女子大学入学者選抜に関する 変更の予告について

令和2年 2月 7日
お茶の水女子大学

本学の入学者受入れ方針に基づき、「学力の3要素」（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を多面的・総合的に評価するために次のとおり変更します。

○ 入試区分の変更（名称の変更）

入試区分については、多面的・総合的な評価の観点からの改善を図りつつ、各々の入学者選抜としての特性をより明確にする観点から、次のように変更します。

<変更前>		<変更後>
・「一般入試」	→	「一般選抜」
・「AO入試」	→	「総合型選抜」
・「推薦入試」	→	「学校推薦型選抜」
・「帰国子女・外国学校出身者特別入試」	→	「帰国子女・外国学校出身者特別選抜」
・「私費外国人留学生特別入試」	→	「私費外国人留学生特別選抜」

○ 一般選抜

1. 募集人員の変更

理学部数学科、化学科、生物学科、生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科では、別表1のとおり募集人員を変更します。

2. 大学入学共通テストの利用方法

一般選抜を受験する全ての受験生に「大学入学共通テスト」を原則として5～6教科7～8科目（一部の学科の後期日程においては、3教科3～5科目）を課します。

民間の英語資格・検定試験について、大学入学共通テストの枠組みによる利用が延期されたことに伴い、独自に利用することはいたしません。

3. 出題教科・科目及び配点の変更

(1) 大学入学共通テスト外国語「英語」の配点について

大学入学共通テストの外国語において「英語」を選択した者については、【リーディング】と【リスニング】の受験を課し、大学入試センターが設定した【リーディング】100点、【リスニング】100点の配点比率を変えずにそのまま合計して200点満点とした上で、各学科等の定める外国語の配点に換算して利用します。(受験上の配慮によって【リスニング】受験を免除された者については【リーディング】の得点を2倍して200点満点とします。)

(2) 理学部数学科(後期日程)

大学入学共通テストで受験を要する教科を5教科7科目から3教科5科目へと変更します。個別学力検査は、課さないこととします。

各教科・科目の配点は、別表2のとおり変更します。

(3) 理学部情報科学科(後期日程)

個別学力検査では、数学に代えて論述試験を課すこととします。

各教科・科目の配点は、別表2のとおり変更します。

○ 総合型選抜(新フンボルト入試)

1. 募集人員の変更

文教育学部人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、生活科学部人間生活学科、心理学科(以下、文系学科と呼びます。)では、当該学科全体で12名を募集します。

理学部数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科、生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科(以下、理系学科と呼びます。)では、別表1のとおり各学科別に募集人員を定めます。

2. 選抜方法の変更

理系学科については、プレミナールの受講を課さず、書類審査にて第1次選考を行うこととします。第1次選考合格者に対して、第2次選考(現行の実験室入試と類似した内容)を11月下旬ごろに行うこととします。ただし、実験室入試の内容について、生物学科では「自主研究のポスター発表と質疑応答」もしくは「論述試験と口述試験」のいずれかを出願時に選択します。人間・環境科学科では自主研究のポスター発表・質疑応答に代えて面接(口述試験を含む)を課すこととします。

なお、文系学科については、これまでの新フンボルト入試と同様、第1次選考としてプレミナールを課し、出願書類とあわせて総合的に選考し、第1次選考合格者に対して、第2次選考(図書館入試)を10月下旬ごろに行います。

3. 英語認定試験の利用方法

大学入学共通テストの枠組みによる利用が延期されましたが、英語資格・検定試験の利用については、これまで公表しているとおりです。

○ 学校推薦型選抜

1. 募集の停止

理学部数学科、物理学科、生物学科、情報科学科では、学校推薦型選抜を実施いたしません。なお、理学部化学科、生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科では、現行入試と同様、引き続き実施いたしません。

(上記の学校推薦型選抜を実施しない学科については、現行の推薦入試と同時期(11月)に総合型選抜(新フンボルト入試)を実施する予定です。)

文教育学部の全学科及び生活科学部人間生活学科、心理学科では、学校推薦型選抜(現行推薦入試)を、引き続き実施いたします。

2. 英語認定試験の利用方法

大学入学共通テストの枠組みによる利用が延期されましたが、英語資格・検定試験の利用については、これまで公表しているとおりです。

○ 帰国子女・外国学校出身者特別選抜

特に変更なし。

○ 私費外国人留学生特別選抜

特に変更なし。